

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月28日

新潟市長様

提出者

住所

新潟市東区太平三丁目4-9

氏名

株式会社達建設 代表取締役 長谷川淳一

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号

025-273-9155

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社達建設
事業場の所在地	新潟市東区太平3-4-9 (新潟市管轄区域内作業所分)
計画期間	令和6年4月1日から 令和7年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 ¥595,664,429円
③ 従業員数	14名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>各事業場 主な発生品目 処理業者へ委託 ※主な処理工程及び再生品目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がれき類 → 破砕 → 再生アスコン・再生路盤材(碎石) ・金属くず → 破砕切断 → 製鉄原料 ・木くず → 破砕 → 原料・燃料チップ ・建設汚泥 → 造粒固化 → 再生土・繊維質固化処理土等 ・紙くず → 破砕圧縮 → 再生紙原料 ・混合(管理型含) → 破砕 → 埋立て処分 ・廃石膏ボード → 破砕圧縮 → 土壌改良材 ・廃プラスチック → 破砕 → セメント燃料 ・繊維くず → 破砕 → セメント燃料 ・ガラス・陶磁器くず → 破砕 → グラスワール原料他 再生不可能な場合は埋立て処分

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

本 社

工 事 部

各現場

現場作業所責任者(廃棄物管理担当)

社内従業員

協力会社

○廃棄物処理に関する各種事項の承認

工 事 部

○委託契約書の締結、管理・保管

○廃棄物処理計画・実施報告書・交付状況報告書の作成

現場作業所責任者

○廃棄物処理方針の策定

○処理業者の調査、選定

○マニフェストの交付・管理

○従業員、協力会社に対する教育・啓発

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（ 5 年度）実績】

① 現 状	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設 混合廃棄物	
	排 出 量	1,365.17 t	6.60 t	2.83 t	2.75 t	9.63 t	1.65 t	8.63 t	t
	産業廃棄物の種類								
	排 出 量	t	t	t	t	t	t	t	t

(これまでに実施した取組)

なし

【目標】

② 計 画	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設 混合廃棄物	
	排 出 量	1,360.00 t	6.00 t	2.80 t	2.70 t	9.60 t	1.60 t	8.60 t	t
	産業廃棄物の種類								
	排 出 量	t	t	t	t	t	t	t	t

(今後実施する予定の計画)

現場内再利用等の排出抑制が難しく、事業の性質上、現場状況や受注量にて排出量が左右されるため計画が立てにくい。

産業廃棄物の分別に関する事項

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

① 現 状	積込時に可能な限り、品目ごとに分別する。
----------	----------------------

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

② 計 画	分別を徹底し、運搬車への混載を極力減らす。
----------	-----------------------

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（5年度）実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設混合廃棄物
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類								
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
なし								
【目標】								
② 計画	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設混合廃棄物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類								
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)								
なし								

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（5年度）実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設混合廃棄物
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類								
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
なし								
【目標】								
② 計画	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設混合廃棄物
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t	
産業廃棄物の種類								
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)								
なし								

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（5年度）実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設混合廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
なし								
【目標】								
② 計画	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設混合廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)								
なし								

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（5年度）実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設混合廃棄物
	全処理委託量	1,365.17 t	6.60 t	2.83 t	2.75 t	9.63 t	1.65 t	8.63 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	6.60 t	2.83 t	t	9.63 t	1.65 t	8.63 t
	再生利用業者への処理委託量	1,365.17 t	6.60 t	2.83 t	2.75 t	9.63 t	1.65 t	8.63 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	全処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
産業廃棄物の処理は、可能な限り優良認定処理業者へ委託する。								

【目標】										
① 計画	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	金属くず	建設汚泥	廃プラスチック	紙くず	管理型建設 混合廃棄物		
	全処理委託量	1,360.00 t	6.00 t	2.80 t	2.70 t	9.60 t	1.60 t	8.60 t		t
	優良認定処理業者 への処理委託量		6.00 t	2.63 t		9.60 t	1.60 t	8.60 t		t
	再生利用業者 への処理委託量	1,360.00 t	6.00 t	2.63 t	2.70 t	9.60 t	1.60 t	8.60 t		t
	認定熱回収業者 への処理委託量									t
	認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託量									t
	産業廃棄物の種類									
全処理委託量										t
優良認定処理業者 への処理委託量										t
再生利用業者 への処理委託量										t
認定熱回収業者 への処理委託量										t
認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託量										t
(今後実施する予定の取組)										
※事務処理欄										

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



産業廃棄物処理計画書（集計用シート）

提出者の名称	株式会社達建設 代表取締役 長谷川淳一	提出者の住所	新潟市東区太平三丁目4-9
事業場の名称	株式会社達建設	事業場の所在地	新潟市東区太平3-4-9（新潟市管轄区域内作業所分）
内容年度	6 年度		

（単位：トン）

廃棄物の種類	現状／計画	排出量 A	自社内での処理状況				委託先での処理状況				
			自己再生 利用量 B	うち熱 回収量 C	自己中間 処理 減量化量 D	自己最終 処分量 E	全処理 委託量 F	委託処理量のうち委託先毎の量			
								優良認定 処理業者 への処理 委託量 G	再生利用 業者への 処理 委託量 H	熱回収 認定業者 への処理 委託量 I	熱回収 認定業者 以外の熱 回収を行 う業者へ の処理 委託量 J
がれき類	現状	1,365.17					1,365.17		1,365.17		
	計画	1,360.00					1,360.00		1,360.00		
木くず	現状	6.60					6.60	6.60	6.60		
	計画	6.00					6.00	6.00	6.00		
金属くず	現状	2.83					2.83	2.83	2.83		
	計画	2.80					2.80	2.63	2.63		
建設汚泥	現状	2.75					2.75		2.75		
	計画	2.70					2.70		2.70		
廃プラスチック	現状	9.63					9.63	9.63	9.63		
	計画	9.60					9.60	9.60	9.60		
紙くず	現状	1.65					1.65	1.65	1.65		
	計画	1.60					1.60	1.60	1.60		
管理型建設 混合廃棄物	現状	8.63					8.63	8.63	8.63		
	計画	8.60					8.60	8.60	8.60		
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
合 計	現状	1,397.26					1,397.26	29.34	1,397.26		
	計画	1,391.30					1,391.30	28.43	1,391.13		